

アクティブ・ラーニング

● アクティブ・ラーニングとは？

アクティブ・ラーニングを直訳すれば「能動的な学習」ですが、それはいったいどのような状況を意味するのか、いくつかの文献から拾ってみましょう。

- 「教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称。学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図る。発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等も有効なアクティブ・ラーニングの方法である。」（「新たな未来を築くための大学教育の質的転換にむけて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～」用語集、中教審答申、2013 年）

http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_3.pdf

- アクティブ・ラーニングの一般的特徴として挙げられる点：
 - (a) 学生は、授業を聴く以上の関わりをしていること
 - (b) 情報の伝達より学生のスキルの育成に重きが置かれていること
 - (c) 学生は高次の思考（分析、総合、評価）に関わっていること
 - (d) 学生は活動（例：読む、議論する、書く）に関与していること
 - (e) 学生が自分自身の態度や価値観を探究することに重きが置かれていること
 - (f) 認知プロセスの外化※を伴うこと

※問題解決のために知識を使ったり、人に話したり書いたり発表したりすること

（松下佳代著「ディープ・アクティブラーニング大学授業を深化させるために」序章より）

参考：「教育目標・内容と学習・指導方法、学習評価の在り方に冠する補足資料 Ver.3」、平成 27 年 3 月

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/053/siryo/_icsFiles/afieldfile/2015/03/27/1355915_06.pdf

- 研究に基づく大学物理におけるアクティブ・ラーニング型教授法の特徴：
 - (a) 次に挙げる点を含め、学習者の既習知識と学習状況に関する分析に基づいて指導を行う。
 - (1) 特定の物理的概念に関する学習者の困難
 - (2) 役に立ちそうな考えや知識

- (3) 学習する際に必要な学習者の信念
 - (4) 特定の学習に関する行動
 - (5) 一般的な論理思考過程
 - (b) 学習者の考えが表現される。
 - (c) 学習者は自分で考えてみることを促される。
 - (d) 学習者は授業中に様々な問題解決活動に取り組む。
 - (e) 学習者は自分の主張の根拠を述べる。
 - (f) 学習は小グループで活動することが多い。
 - (g) 学習者は探究や問題解決活動の際に、すぐにフィードバックをもらえる。
 - (h) 定性的な理由づけと概念把握を行うことが強調される。
 - (i) 問題は様々な文脈や表現によって提示される。
 - (j) 問題解決の際に、実際の物理的な物を用いた指導が行われることが多い。
 - (k) 学習者自身の問題解決活動を振り返るような指導がなされる。
 - (l) 概念を階層的構造に結び付けることが強調される。
 - (m) 学習者の思考に基づく教科内容と、学習者が集中するような行動を結び付ける。
- (D. E. Meltzer, R. K. Thornton, “Resource Letter ALIP-1: Active-Learning Instruction in Physics”,
Am. J. Phys. 80 (6), 478-496, (2012) (訳：土佐幸子) .)
- <http://www.bu.edu/hps-scied/files/2012/10/Meltzer-HPS-Active-Learning-Instruction-in-Physics.pdf>